



川俣小学校「学校だより」

輝くひとみ

令和3年1月15日(金) 第38号

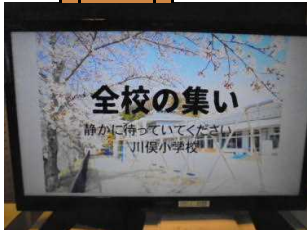
教育
目
標

☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども

発行者 校長 本名 武



なりたい自分をイメージ



今週の全校の集いは、感染症防止のためテレビ放送で行いました。偶数学年の代表児童が「冬休みの反省と3学期のめあて」をカメラのレンズ越しに立派に発表しました。反省は自分の改善すべき点がしっかり確認できる点で大切です。めあては、特に重要です。それは「なりたい自分」を明確にイメージできるからです。よりよく変わるための原動力となるからです。



2年ほど前、リオデジャネイロ五輪陸上出場者で日本陸上競技選手権大会でも優勝した方からお話を伺ったり、実技を拝見し



たりする機会がありました。そのお話の中で、「自分は小学校のとき運動神経がいいほうじゃなかった。運動会のリレーの選手にもなれなかった。そんな自分が、今オリンピック陸上の舞台に立っている。」「なりたい自分を強くイメージし、そのためにすべきことを実行していくこと、それが今につながっている。」本気になったときに人は変わるということ、挑戦への勇気がわいてくるお話でした。その後、三段跳びを見せていただきましたが、はじめのホップの滞空時間の長さとその距離に驚かされました。めあて・なりたい自分を一人一人に明確に持たせ、よりよく変わる3学期にと考えます。



はきものをそろえると・・・



3学期になって、雪道や凍結路を登校するため、下駄箱に入りきれない長靴などがあります。感心なことに、下駄箱の中も、上に置かれた長靴等もほとんどが揃っています。そんな下駄箱を見ていると、藤本幸邦氏の詩が浮かびます。



はきものをそろえると こころもそろう

心がそろうと はきものもそろう

ぬぐときに そろえておくと

はくときに 心がみだれない

だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと 世界中の人の心も そろうでしょう



履き物を揃えるということは、自分の足もと（所作・言動）を見ること、トイレなどでは次に使う人への気遣いができることなど、その「揃える」意義は、自分自身の振り返りや人への配慮等ができる豊かな心や人間性にもつながっていると感じます。